

## 天文学将来計画小委員会報告

12月17日の天文学研究連絡委員会の開催に伴い、同日午前中に将来計画小委員会が開かれた。地上大型望遠鏡に関して12月7日8日の両日に亘って関係者25名(将来計画小委・研連委10名を含む)によって持たれた検討会の結果についての報告があり、そこで得られた試案についての討論が行われた。試案は、①赤外域を含む絶対測光・高空間分解能撮像などの高度な条件を要求する観測を行うためには、将来、国際的な見地から適切な望遠鏡設置地域を探す必要のあること、そのための地図を順次行う必要のあること、②緊急に国内に大型光学望遠鏡を建造し、急増しつつある現在の学術的要請に答えるとともに、第1項との関連においても国際協力の基盤を固め、技術水準を高める必要のあること、③それらの基礎となる教育・開発研究用の各大学専用中小口径望遠鏡の充実の必要なこと、④あらゆる面で高まりつつある国際協力の必要性に対応するため、国際協力に関する委員会を設置することが望ましいこと、場合によつてはアジア地域の国際交流に主眼を置いた天文学研究

センターともいべき組織を持つことについて検討すべきこと、等を骨子としている。また、大気圏外からの天文観測については、しっかりととした組織が必要であり、我が国の宇宙観測将来計画としては、最緊急課題の一つである、との意見が述べられた。天文学教育・普及関係の文書を作成するための内容原案も紹介された。

小委員会での議論の様子は親委員会に報告され、特に、緊急に国内に設置すべき大型望遠鏡計画については、具体的な資料を提示するよう要請があった。「天文学将来計画」は、できれば昭和55年度中に文章化する予定であるので、6月9日に予定されている次回の研連委で原案骨子の固まることが望ましい、ということであった。

将来計画小委員会(文責 連絡係 小平桂一)

☆ ☆ ☆

### 学会だより

#### 春季年会の開催と講演の申込について

今春の年会は、東京大学理学部2号館講堂(本郷構内・赤門脇)において、5月12日(月)から5月16日(金)にわたって開催の予定です。今回の講演発表は、従来通りのシングルセッション形式で行われます。講演数に応じて、12日(月)午前・午後ないしは13日(火)午前から講演発表が開始されますので予め御諒承下さい。春季年会プログラムは、4月20日発行の天文月報5月号に掲載されますので、特に講演発表開始日時に御留意下さい。

講演申込みは、『〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 東京天文台内、日本天文学会年会係』あてに、封筒の表に「講演申込書在中」と朱筆の上 3月17日(月)までに必着するよう規定の申込用紙を用いてお送り下さい。

講演申込み用紙は、支部にまとめて送ってありますので希望者は返信料50円切手を同封の上、下記の理事へお申し出下さい。

北海道: 兼古 昇 〒060 札幌市北八条西5丁目

北海道大学物理学教室

水 津: 真鍋 盛二 〒023 水沢市星が丘町 2-12

緯度観測所

仙 台: 田村 真一 〒980 仙台市荒巻字青葉

東北大学理学部天文学教室

東京: 宮本昌典 〒181 三鷹市大沢 2-21-1

東京天文台

名古屋: 祖父江義明 〒464 名古屋市千種区不老町  
名古屋大学理学部物理学教室

京 都: 稲垣省五 〒606 京都市左京区北白川追分  
町 京都大学理学部宇宙物理学教室

中国・四国: 石田五郎 〒719-02 岡山県浅口郡鳴  
方町 岡山天体物理観測所

九 州: 上西啓祐 〒860 熊本市黒髪 2-39-1

熊本大学理学部物理学教室

◇講演申込者で、年会出席旅費の補助を希望される方は、支部理事を通じて、3月17日(月)までに「東京天文台内 日本天文学会理事長」あてに申し込んで下さい。但し申込みのできる人は、54年度会費納入済みの人で、原則として、連名の場合でもスピーカーであり、正式の給与を受けていない人(大学院生など)に限りります。

◇講演申込み・発表に際しては、特に次の事項に御留意下さい。

1. 講演は1人1回に限る。
2. スピーカーを発表者の筆頭に書くこと。
3. ビラの使用禁止、スライドまたはオーバーヘッドプロジェクターの使用に限る。
4. 講演内容は完成度の高い研究とする。
5. 講演申込書についても注意事項を厳守のこと。